

## 1. 評価結果概要表

作成日 平成 21 年 12 月 15 日

## 【評価実施概要】

事業所番号	4070900875		
法人名	社会福祉法人 福岡愛心の丘		
事業所名	グループホーム 愛心		
所在地	福岡市博多区月隈6丁目16-11-1 〒812-0858 (電話) 092-503-9008		
評価機関名	社会福祉法人 福岡市社会福祉協議会		
所在地	福岡市中央区荒戸3-3-39		
訪問調査日	平成21年12月14日	評価確定日	平成22年1月4日

## 【情報提供票より】(平成 21 年 11 月 27 日事業所記入)

## (1) 組織概要

開設年月日	昭和・平成 13 年 7 月 1 日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	18 人	常勤 18 人	非常勤 0 人 常勤換算 14.5 人

## (2) 建物概要

建物構造	鉄筋コンクリート造り		
	2 階建ての～	2 階部分	

## (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	38,000～40,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	無		
保証金の有無 (一時金を含む)	有( 250,000 円) 無	有の場合 償却の有無	有 無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日あたり		1,200 円程度	

## (4) 利用者の概要( 11 月 27 日現在)

登録人数	18 名	男性	0 名	女性	18 名
要介護1	6 名	要介護2	4 名		
要介護3	3 名	要介護4	3 名		
要介護5	2 名				
要支援1	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87 歳	最低	79 歳	最高	91 歳

## (5) 協力医療機関

協力医療機関名	福岡記念病院・志免総合診療所・きと歯科医院
---------	-----------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

住み慣れた地域で継続的な生活の支援ができる場所を提供したいとの思いのもとに開設されたグループホームである。ホームの周囲に介護老人福祉施設や介護サービス事業所が隣接し、福祉や介護面のバックアップ体制は、利用者や家族に安心感を与えている。管理者をはじめ、全職員が利用者の生きてきた人生を尊重し、「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」の理念のもと、運営方針や活動方針等を全職員で作成している。利用者にとってホームが「第2の我が家」として、生きがいのある最適な生活空間となるよう、地域とのふれあいを大切に、利用者と職員が家族のように生活を共にすることを目標に、穏やかでさりげない支援が行われている。法人全体での夏祭りや敬老会等へ地域の方やボランティアの方が多数参加する等、地域交流が積極的に行われている。今後、地域の認知症ケアの推進役となっていくことが期待できるホームである。

## 【重点項目への取組状況】

重点項目	<b>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</b> 前回の評価結果について、会議時に全職員にて改善についての協議を行うなど、質の向上への取組みがある。この過程において、運営推進会議時に地域包括支援センター職員による成年後見制度や人権学習が開催される等の具体的な成果が見られる。
	<b>今回の自己評価に対する取組み状況(関連項目:外部4)</b> 今回の受審にあたり、職員全員で評価項目の内容を確認し、職員の意識向上に繋げるなどの取組みがある。
重点項目	<b>運営推進協議会の主な検討内容及びそれを活かした取組み(関連項目:外部4,5,6)</b> 区の社会福祉協議会会長、協力病院の地域連携室長、地域診療所の事務長、校区小学校のPTA関係者、いきいきセンターふくおかの担当職員、利用者、家族等の参加のもとに2ヶ月毎に開催している。ホームの活動状況などについて報告が行われ、避難訓練の誘導の仕方等について地元消防団の方から助言をもらう等、運営推進会議を活かした取組みがある。
	<b>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)</b> その都度の電話連絡のほか、毎月、担当職員より個別に手紙を送付し、利用者の日常生活の様子や健康状態などを具体的に報告し、家族との信頼関係を築いている。また、毎月、写真を掲載したホーム便りを送付し、行事やレクリエーションの様子などを報告する取組みがある。面会時や担当者会議時などを通じて、家族との交流を深めながら、要望や意見を表出しやすい雰囲気作りへの配慮がある。
重点項目	<b>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</b> 法人内の夏祭りや敬老会等へ地域の方やボランティアの方が多数参加したり、ホーム独自のクリスマス会に地域ボランティアの方や家族が参加するなど、地域交流が積極的に行われている。ホーム1階のふれあいサロンを地域の方に開放し、ボランティアによる生け花・体操・書道・陶芸教室や小中学校の職場体験など、地域とのかかわりを意識した取組みがある。

## 2. 調査報告(詳細)

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1 理念の共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「楽しく・美しく・いつまでも・地域と共に」の理念のもと、運営方針や活動方針などを全職員で作成している。利用者にとってホームが「第2の我が家」として、生きがいのある最適な生活空間となるよう、地域とのふれあいを大切に、利用者と職員が家族のように生活を共にすることを目指し、日々の業務に積極的に取り組んでいる。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内に掲示し、自然に目に入る工夫がある。毎月のミーティングや毎日の朝礼で唱和したり、業務の合間に常に理念に立ち戻り、確認している。日々の業務の中で職員間で理念と照らし合わせて検討したり、月1回のミーティングやケアカンファレンス時に理念に基づいたケアの内容について協議するなど、理念の実践に向けた取り組みがある。		
2 地域との支え合い					
3	5	地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	法人全体での夏祭りや敬老会等へ地域の方やボランティアの方が多数参加したり、ホーム独自のクリスマス会に地域ボランティアの方や家族が参加する等、地域交流が積極的に行われている。ホーム1階のふれあいサロンを地域の方に開放し、ボランティアによる生け花・体操・書道・陶芸教室や小中学校の職場体験等、地域とのかかわりを意識した取り組みがある。		
3 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	前回の評価結果について、会議時に全職員にて改善についての協議を行うなど、質の向上への取り組みがある。この過程において、運営推進会議時に地域包括支援センター職員による成年後見制度や人権学習が開催される等の具体的な成果が見られる。今回の受審にあたり、職員全員で評価項目の内容を確認し、職員の意識向上に繋げるなどの取り組みがある。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区の社会福祉協議会会長、協力病院の地域連携室長、地域診療所の事務長、校区小学校のPTA関係者、いきいきセンターふくおかの担当職員、利用者、家族等の参加のもとに2ヶ月毎に開催している。ホームの活動状況などについて報告が行われ、避難訓練の誘導の仕方等について地元消防団の方から助言をもらう等、運営推進会議を活かした取り組みがある。		
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	運営推進会議時にいきいきセンターふくおかの担当職員の参加がみられる。また、市の介護保険事業者協議会の研修への参加等を通じて、行政との連携への取り組みがある。月2回ふれあい相談員の訪問により、利用者との交流が図られ、運営上の事について助言をもらう等、行政と連携を図りながら質の向上への取り組みがある。		
7 追加	10	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	外部研修・法人内研修への参加や受講報告会を行なうほか、運営推進会議時に地域包括支援センター職員による成年後見制度についての説明を行うなど、成年後見制度や日常生活自立支援事業について職員全体で理解を深める取り組みがある。契約時や必要に応じて、利用者・家族に制度の概要や利用手順についての説明、支援が行われている。		
4 理念を実践するための体制					
8 (7)	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	面会時や状況に応じて、その都度の電話連絡を行ったり、毎月、担当職員より個別に手紙を送付し、利用者の日常生活の様子や健康状態、外出・行事参加の様子などを具体的に報告し、家族との信頼関係を築いている。また、毎月、写真を掲載したホーム便りを送付し、行事やレクリエーションの様子を報告するなどの取り組みがある。		
9 (8)	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や担当者会議時などを通じて、家族との交流を深めながら、要望や意見を表出しやすい雰囲気作りへの配慮がある。面会時の何気ない言葉や些細な態度から、常に家族の思いや意向の把握に努め、出された要望は、内容に応じてその場での回答や、申し送り・職員会議で検討した後に回答するなどの取り組みがある。		
10 (9)	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	法人内の異動は必要最小限に行い、ユニット間での職員の異動はない。日頃からユニット間や法人全体で利用者と職員の交流が図られており、利用者との馴染みの関係が保たれる様な体制を整えている。月1回のユニット会議で、意見や提案を話しやすい環境を整えて離職を抑えるように工夫している。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5 人材の育成と支援					
11	19 追加	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	職員採用については、資格や経験の有無などの制限は設けていない。人間性を重視しての採用である。園芸の得意な職員がボランティアで家庭菜園の草取りを行ったり、パソコンの得意な職員にホーム便りを作ってもらったりなど、職員の個性を尊重し、様々な特技や得意分野をもつ職員の能力を活かしながら、やりがいを持って勤務していく体制が整えられている。外部研修への参加や資格取得を目指す職員に対しては、勤務扱いとし、勤務調整を行うなどの支援体制がある。		
12	20 追加	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	法人内研修や運営推進会議時に地域包括支援センター職員を招いて人権学習を開催したり、ホーム内で人権尊重について学習する機会を設けている。言葉遣いや接遇など、人権尊重や高齢者の尊厳について全職員にて学習し、日々の業務に反映できるように努めるなど、職員の人権意識を喚起する取り組みがある。		
13 (10)	21 (19)	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内研修やホーム内研修について計画表を作成し、全職員が参加している。外部研修については、案内を提示して参加を募ったり、研修内容や職員の経験を考慮し、管理者が参加を促す等、参加の機会を確保する取り組みがある。研修参加後は、受講報告会を行い、職員全体のスキルアップを図る等、質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。		
14 (11)	22 (20)	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームに見学に行ったり、外部研修に定期的に職員が参加し、他事業所の職員との意見交換や交流が図られ、サービスの質の向上に向けた取り組みがある。老人福祉施設協議会や介護者のつどい、市の介護保険事業者協議会に参加し、他事業所との情報交換や新たな情報を得る機会を確保し、質の向上に向けて積極的に取り組んでいる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15 (12)	28 (26)	馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	本人・家族との面談やホーム見学、病院への訪問・医療従事者からの情報収集などを通じて、本人の様子を見ながら、安心して入居後の生活に馴染めるように柔軟に対応する取組みがある。入居直後は、利用者への頻繁な声かけを行い、かかわりを多く持つなど、利用者の不安を軽減し、徐々に馴染めるような支援を行っている。		
2 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16 (13)	29 (27)	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は常に利用者寄り添い、生活を共にするという姿勢で利用者との信頼関係づくりに取り組んでいる。日常の中でのかかわりを通じて、料理の味付けや急須の持ち方、煮物・干し柿の作り方等、日常生活全般について様々なことを学ぶ機会がある。利用者が自然と職員に感謝の言葉をかける等、お互いを尊重し、支え合いながら過ごしている関係が伺えた。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1 一人ひとりの把握					
17 (14)	35 (33)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用前の面談や利用者・家族の参加による担当者会議などを通じて、家族の思いや希望の把握に努めている。担当者会議や日常のかかわりの中で、利用者の動作や表情などから思いや意向を汲み取り、援助目標やケアの内容について担当職員と計画作成担当者がアセスメントを作成し、介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。		
2 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18 (15)	38 (36)	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	利用前の面談や担当者会議、家族の面会時などを通じて、家族の思いや希望の把握に努めている。担当者会議や日常のかかわりの中で、利用者の動作や表情などから思いや意向を汲み取り、利用者・家族・計画作成担当者・職員間にて目標やケアの具体的な内容について協議・検討し、介護計画書へ反映させるなどの取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
19 (16)	39 (37)	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行う とともに、見直し以前に対応できない変 化が生じた場合は、本人、家族、必要な 関係者と話し合い、現状に即した新たな 計画を作成している	日常生活全般の様子や職員の気づき・工夫などを 介護記録に具体的に記録している。6ヶ月毎および状 況の変化時や家族の希望時に、内容・目標の評価を 行い、見直し及び再作成が行われている。月に1度の ユニット会議にて、職員全体で全利用者や家族の意 向の確認、目標・ケアの内容について検討する取組 みがある。		
3 多機能性を活かした柔軟な支援					
20 (17)	41 (39)	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に 応じて、事業所の多機能性を活かした柔 軟な支援をしている	協力医療機関への月1回の通院介助や連携支援、 かかりつけ医への通院介助など、利用者・家族の状 況や要望に応じて、柔軟に対応している。定期的に生 け花・書道・体操・陶芸教室を開催し、地域ボラン ティアと利用者との交流が図られている。訪問美容室や なじみの美容室を数名の利用者が利用するなど、個 別の希望に応じた支援がみられる。		
4 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
21 (18)	45 (43)	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納 得が得られたかかりつけ医と事業所の関 係を築きながら、適切な医療を受けられ るように支援している	契約時にかかりつけ医の継続と協力医療機関の利 用について相談し、本人・家族の意向に沿って支援し ている。ホームの看護師による利用者の状態把握及び ホーム協力意図の連携による協力病院への受診の支 援がある。かかりつけ医への受診については、家族 の状況に応じて家族と同行したり、ホームにて支援す るなどの取組みがある。		
22 (19)	49 (47)	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方につ いて、できるだけ早い段階から本人や家 族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し 話し合い、全員で方針を共有している	契約時に重度化や看取りについての対応を説明し、 利用者・家族の意向を確認の上、同意を得ている。 日々のかかわりの中で本人や家族の意向を再確認 し、本人・家族の意思を尊重しながら家族・主治医・事 業所間で協議し、方針を共有していく取組みがある。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1 その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23 (20)	52 (50)	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損 ねるような言葉かけや対応、記録等の個 人情報の取り扱いをしていない	日常のかかわりの中で常に尊厳を持った支援を心 がけ、法人内研修や内部研修にて接遇や言葉使いな どの勉強会を行い、利用者への尊厳について職員間 で意識の統一を図る取り組みがある。利用者一人ひと りに応じて、タイミングを見計らった誘導の声かけ やケアの際のさりげない言葉かけなど、利用者の人 格を尊重した対応が見受けられた。		
24 (21)	54 (52)	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するの ではなく、一人ひとりのペースを大切に し、その日をどのように過ごしたいか、 希望にそって支援している	起床や就寝、食事時間など、ホームとしての大まか な一日のスケジュールはあるものの、そのときどきの 利用者の気持ちを尊重し、決して無理強いせず、様 子を見ながら声かけを行っている。利用者の希望や 状況に応じたレクリエーションへの参加、食事・入浴 のタイミングなど、利用者一人ひとりのペースを尊重 し、支援している。		
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25 (22)	56 (54)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人 ひとりの好みや力を活かしながら、利用 者と職員と一緒に準備や食事、片付けを している	季節の食材を取り入れ、栄養バランスを考慮した献 立を作成し、法人内の管理栄養士に相談・助言をもら いながら全てホームにて食事を作り、提供している。 食材の下ごしらえや配膳、皿拭き等、利用者ができる 範囲で協力しながら行うなどの取り組みがある。利用者 と職員が共にテーブルを囲み、和やかな雰囲気の中 で食事を楽しめるような取り組みがある。		
26 (23)	59 (57)	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてし まわずに、一人ひとりの希望やタイミ ングに合わせて、入浴を楽しめるよう に支援している	毎日の入浴が可能である。利用者の体調に配慮し ながら、夕方から夕食後まで、利用者の希望やその 時々的心情を尊重して柔軟に対応している。利用 者の希望により、数名の利用者が共にくつろぎなが ら入浴を楽しまれたり、入浴が苦手な利用者には、入浴 招待チケットを提供し、快く入浴できるような工夫や支 援がみられる。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27 (24)	61 (59)	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせる ように、一人ひとりの生活歴や力を活か した役割、楽しみごと、気晴らしの支援 をしている	食事の準備や配膳、後片付け、干し柿作り、インゲ ンのすじとり、居室の掃除など、利用者の出来ること や生活歴などを把握し支援している。生け花の趣味を 活かし、毎月の生花教室に参加する等、利用者の楽 しみごとを活かした支援が見受けられた。		
28 (25)	63 (61)	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひ とりのその日の希望にそって、戸外に出 かけられるよう支援している	法人内の夏祭りや敬老会などの行事への参加や散 歩、花見、外食、ドライブ、買い物など、利用者の状況 に応じてできるだけ戸外に出かける支援が行われて いる。利用者の希望に応じて、なじみの美容室への 外出支援が行われている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
29 (26)	68 (66)	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中 玄関に鍵をかけることの弊害を理解して おり、鍵をかけないケアに取り組んでい る	日中は常に開錠されており、自由に入出入りできる。 職員は、利用者の様子をきめ細かく観察し、談話の中 から利用者の思いや状況を把握し、さりげない言葉か けや利用者と一緒に出かけるなど、利用者の自由な 暮らしを支える対応と安全面への配慮がある。		
30 (27)	73 (71)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜 を問わず利用者が避難できる方法を身 につけ、日ごろより地域の人々の協力を得 られるよう働きかけている	消防署の指導のもと、法人全体で年2回、避難訓練 を実施している。消防・災害計画書には、地域在住の 職員の対応について記載し、対応できるようにしてい る。運営推進会議に地元消防団からの出席がみら れ、避難誘導の仕方についての助言や非常災害時 の応援体制についての協力など、地域との連携、協 力体制が整えられている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31 (28)	79 (77)	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一 日を通じて確保できるよう、一人ひと りの状態や力、習慣に応じた支援をしてい る	利用者の栄養バランスや栄養価を考慮した献立を 作成し、法人内の管理栄養士にアドバイスをもらうな どの取組みがある。利用者毎に食事量を記録し、食 事量が少ない利用者へは、好みの食べ物や食事形 態、見た目を工夫している。水分摂取量が少ない利 用者へは、水分チェックを行い、頻繁な声かけを行う など、栄養摂取や水分確保への支援がある。		



外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取り組みを期待 したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
2 その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32 (29)	83 (81)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台 所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者 にとって不快な音や光がないように配慮 し、生活感や季節感を採り入れて、居心 地よく過ごせるような工夫をしている	玄関には、生け花の得意な利用者が生けた生花が 飾られている。リビング内には、クリスマス会で地域ボ ランティアの方による風船を使用したクリスマスツリー が飾られていたり、利用者の手作りの品々や行事の スナップ写真が多数飾られるなど、家庭的な雰囲気を 醸し出している。利用者同士が談話を楽しまれ、居心 地良く過ごしている様子が見受けられた。		
33 (30)	85 (83)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や 家族と相談しながら、使い慣れたものや 好みのものを活かして、本人が居心地よ く過ごせるような工夫をしている	各居室には格子戸と広い玄関があり、備え付けられ た靴箱、上がり台は収納の機能性と和風の趣があ る。部屋の中は畳敷きの和室で、写真や仏壇、冷蔵 庫、テレビ、ホット等、馴染みの物が持ち込まれ、居心地 良く過ごすための居室作りの工夫や配慮がみられ た。居室は、利用者の状態に応じて、担当職員と一緒 に整理・清掃を行う取り組みがある。		

32 は、重点項目。  
(数字)は、国の標準例による番号